

登録コード	UAF05500	開講年度	2026			
授業題目	人間形成論特論				担当教員	高柳 充利
					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・4時限	
			授業形態	講義		
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】	
	2 4 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 3 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学					
	【心理・長野臨床以外】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。				人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。	
	2 4 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学					
	【心理・長野臨床】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。				人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。	
	2 6 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 6 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学, 2 5 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 5 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学					
	【心理】心理学分野の高度な知識・技能を有する。				心理学分野の高度な知識・技能を有する。	
	【心理】量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を有する。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に応用する能力を有する。				量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を有する。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に応用する能力を有する。	
	【心理】多領域のステークホルダーを動員し、地域・社会の課題に対して主体的に取り組みながら、独創的な提案を行う力、問題解決に不可欠な総合的なシナリオを提示できる提案力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する効果的な支援を提案できる能力を有する。				多領域のステークホルダーを動員し、地域・社会の課題に対して主体的に取り組みながら、独創的な提案を行う力、問題解決に不可欠な総合的なシナリオを提示できる提案力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する効果的な支援を提案できる能力を有する。	
	(2)授業の概要	1. 人間形成という問題圏について自分なりの課題意識をもつ。 2. 課題意識と文献（教育哲学に関わる領域）に提示されている議論とを交流させ自分なりの論を展開させる。 3. 自らの論と他者のそれとの双方向的な対話を通して新たな視点でもって人間形成について表出する。				
(3)授業計画	第1回：ガイダンス【遠隔等】（Zoom） 第2回：人間形成という問題圏(1)神谷美恵子『生きがいについて』を手がかりにして【遠隔等】（オンデマンド） 第3回：人間形成という問題圏(2)テキストを手がかりにして【遠隔等】（Zoom） 第4回：人間形成への眼差し(1)神谷美恵子『生きがいについて』を手がかりにして【遠隔等】（オンデマンド） 第5回：人間形成への眼差し(2)テキストを手がかりにして【遠隔等】（Zoom） 第6回：人間形成への省察(1)神谷美恵子『生きがいについて』を手がかりにして【遠隔等】（オンデマンド） 第7回：人間形成への省察(2)テキストを手がかりにして【遠隔等】（Zoom） 第8回：人間形成という取り組み(1)神谷美恵子『生きがいについて』を手がかりにして【遠隔等】（オンデマンド） 第9回：人間形成という取り組み(2)テキストを手がかりにして【遠隔等】（Zoom） 第10回：人間形成と人間の可能性(1) V. E. フランクル『夜と霧』を手がかりにして【遠隔等】（オンデマンド） 第11回：人間形成と人間の可能性(2)テキストを手がかりにして【遠隔等】（Zoom） 第12回：人間形成を再考する(1)V. E. フランクル『夜と霧』を手がかりにして【遠隔等】（オンデマンド） 第13回：人間形成を再考する(2)テキストを手がかりにして【遠隔等】（Zoom） 第14回：まとめ【遠隔等】（Zoom） 期末試験の有無 無 第14回は授業アンケートの実施を含む。					
(4)成績評価の方法	成績評価は次のような事項を参考に行う予定であるが、受講の状況によって調整・最適化を図る場合もある。 ・発表1-2回程度（およそ40％） ・討議への参加15回（およそ20％） ・期末レポート（およそ40％） 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀, 89-80％ 優, 79-70％ 良, 69-60％ 可, 59％以下 不可					
(5)成績評価の基準	(i) 問題の設定が適切であり, (ii) その問題の背景を説明できており, (iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており, (iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており, (v) その上で自分の見解を提示できており, かつ, 教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。(i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」。					
(6)事前事後学習の内容	事前学習：担当回の発表の準備．ならびに、授業計画で示された文献を読み、議論への貢献ができるよう準備しておくこと． 事後学習：授業で扱われた事項について、生活のなかで読書や討議の機会をみつけ、思考を深めること． ・この授業は90時間の学修を必要とする内容である．					

(6)事前事後学習の内容	従って、60時間以上の時間外学習が必要となる。
(7)履修上の注意	授業時間以外において各自の関心に基づき適宜学びを深めることが求められる。
(8)質問,相談への対応	【窓口：高柳】オフィスアワーの実施場所：N316，曜日・時間（在室の時はいつでも）。連絡先（研究室電話番号：026-238-4215，メールアドレス：takayana@shinshu-u.ac.jp）
【教科書】	授業中に紹介する。
【参考書】	授業中に紹介する。